

「事故は起こる」という前提で始める 安全システムの構築に

[評者] 山田雅子 セコメディック病院看護部長

医療事故防止マニュアル

芳賀 繁 監修／医療事故防止ビデオ制作委員会 編

DVD・ビデオ各全5巻セット
定価 24万9375円(本体23万7500円+税5%)
安井電子出版 TEL.0120-573-433



「飛行機が飛び、自動車は高速道路にあふれ、土砂を山盛りに積んだトラックは工事現場を往來します」

本ビデオ(DVD)第1部「医療事故のメカニズム——エラー防止より事故防止」の冒頭はこうした映像で始まります。

私たちは、飛行機は落ちるものだと知っていることを知っています。また、自動車事故が毎日多発していることも知っています。ですが、それでも飛行機に乗り旅行をするのを楽しみ、自動車を便利に使い続けていくのが私たちの生活です。それに対して患者様は、医療を受けるなかで事故が起こることを知りながら、病院を受診されているのでしょうか。そして医療者は、事故は起こるものだとすることを前提に、毎日の仕事にシステムティックに取り組んでいるのでしょうか。

■個人任せでなく、病院全体で取り組んでこそその医療事故対策

冒頭の画面から読み取れるメッセージは、医療事故から患者様を守らなければならない医療者は、まず、こうした安全に関する考え方が、医療の世界とそのほかの産業分野における世界とは、随分と違った道筋をたどっているという事実を知るべきだということです。医療現場においても、「エラーに基づく医療事故は起こるのだ」ということを大前提にして、安全管理システムを構築していくことが求められているのです。

第1部ではまず、「自分を過信するな」ということをとことん教えてくれます。自分の目や耳は、情報を間違いなく捉え、伝えることができますか？ というふうに、いかに人の感覚は信用なら

ないものかということ、心理学的に上手に解説してくれます。看護師であろうと医師であろうと、私たちはエラーを起こす人間であるのです。

第2部では、単に医療者個人が気合いを入れるだけではエラー防止につながらないこと、病院全体でエラー防止に取り組むことが、医療事故対策なのだと教えてくれます。

では、どのように取り組めばよいのか。第3部では、医療現場に潜んでいる危険因子を抽出し、それがどの程度危ないのかという優先順位をつける手順を、実際に会議を行なっている場面を通して、丁寧に解説しています。何から手をつけてよいのかと迷っているよりも、とりあえず取り組める作業として大変参考になるでしょう。

■いざ起こってしまったときにとるべき対応が具体的に展開される

そして第4部、ここからは、医療事故が起こってしまった場合の対応が2巻にわたって続きます。事故発生直後、救命処置終了後、事故当日中、事故後数日中、事故後数週間から数か月という時期を区切った対応のポイントを示しています。自分の身に置き換えて、ドキッとする場面が展開されます。マスコミへの対応、被害者への対応など、具体的な内容まで一歩踏み込んだマニュアルであるのが特徴であると考えます。

このビデオの全編にわたり、実際に医療サービスを提供している医師、事務職、看護職たちが、大変リアルに登場してきます。看護部門ばかりでなく、病院全体で事故対策をするのだという制作者の強い意志が感じられました。私の病院でも、早速院内の勉強会で活用させていただきました。